

13. 歷 史

(1) 歴史年表

西 暦	年 号	記 事
紀 元 前 3～2万 年		前原町、貫井南町から無土器文化時代の遺跡が発見されている。
紀 元 前 2,000～500 年		野川沿いの武蔵野段丘から縄文文化時代の遺跡が発見されている。
紀 元 1100 年	康 和 2 年 (平安時代)	この頃から武蔵野台地の下に集落ができ始める。
1205 年	元 久 2 年 (鎌倉時代)	天満宮(現在の小金井神社)が創建される。
1352 年	正 平 7 年 (南北朝時代)	金井原(前原町)で足利尊氏と新田義貞が戦う。
1566 年	永 禄 9 年 (安土桃山時代)	金蔵院が創建される。
1635 年	寛 永 12 年 (江戸時代)	武州府中領小金井村「御縄打帳及び同水帳」によると、当時の耕作面積は次のとおり。 田 13ha 畑 39ha 合計 52ha
1644 年	正 保 1 年	小金井村は推定30～40戸あり、水陸資料出所両田の石高は、172石 貫井村は10戸、60石
1653 年	承 応 2 年	玉川上水が完成し、武蔵野台地上に新田の開発が進む。
1683 年	天 和 3 年	小金井村が上、下小金井村に分村。上小金井村46戸。下小金井村74戸。耕作面積は次のとおり。 上・下小金井 畑 41ha 田 16ha 計57ha 小金井新田 畑 133ha
1737 年	元 文 2 年	玉川上水の両岸に桜が植えられる。
1743 年	寛 保 3 年	小金井村「指出帳」によると村の概要は次のとおり。 耕作面積 149ha 石高 792石 戸数 135 戸 人 口 600人 馬 35頭 橋 25 か所 神社仏閣 3 稲荷 13 基地 5 か所 貫 井 村 50戸、286人
1747 年	延 享 4 年	東町4丁目の土地10haに栗苗6,915本が植えられ、これが「栗御料林」として小金井栗の起源となる。
1757 年	宝 暦 7 年	「年貢割付高反別帳之写帳」によると耕作面積は次のとおり。 梶野新田 74ha 小金井新田 58ha 上小金井村 51ha 下小金井村 154ha 関野新田 68ha 貫 井 村 133ha 合 計 565ha
1806 年	文 化 3 年	小金井の桜の名が広まり、林大学頭が「観桜記」を書く。
1834 年	天 保 5 年	この年の戸数は次のとおり。 上小金井村 47戸 下小金井村 190戸 貫 井 村 92戸 関野新田 44戸 梶野新田 39戸 合 計 412戸
1844 年	天 保 15 年	将軍世子家定(後の13代将軍)が、遠馬で小金井桜を見物し、その名がますます広まる。
1869 年	明 治 2 年	明治維新後の改革により品川県に編入される。
1872 年	明 治 5 年	下小金井村付近55か村が品川県から神奈川県に移管される。

西 暦	年 号	記 事
1873 年	明 治 6 年	<p>学制が公布される。この年の小学校の概要は次のとおり。</p> <p>小 学 校 3校 (梶野、貫井、小金井) 入校人員 181人 (男 119人、女 62人) 教 員 数 6人</p> <p>金蔵院に3村、上・下小金井村、下小金井新田で尚綱学舎(第一小学校の前身)を開設する。その後小金井地域内に貫井学舎、永寿学舎が開設される。</p> <p>また、小金井村の村勢は次のとおり。</p> <p>人 口 2,210 人 (男 1,092人、女 1,118人) 世 帯 383 世帯 耕作面積 565 ha 1世帯当たり人員 5.8人 1世帯当たり耕作面積 1.48ha</p>
1881 年	明 治 14 年	幕末の大侠客小金井小次郎65歳で没す。
1883 年	明 治 16 年	明治天皇が小金井桜を観に行幸される。
1884 年	明 治 17 年	皇太后・皇后が小金井桜を観に行啓される。
1889 年	明 治 22 年	<p>町村分合により小金井村、貫井村、小金井新田、梶野新田、関野新田、十ヶ新田、下染屋、人見、是政、上石原を併せて小金井村が発足する。初の村議会議員選挙が実施される。</p> <p>初代村長 渋谷清吉</p>
1893 年	明 治 26 年	小金井村は神奈川県から東京府に編入される。
1901 年	明 治 34 年	小金井尋常小学校を小金井尋常高等小学校と改め場所を金蔵院から現在の一小の地に移転する。
1912 年	明 治 45 年	小金井の桜の老化が目立つようになり、史跡名勝記念物保存協会から東京市へ桜樹の保護願が出される。
1917 年	大 正 6 年	現西武多摩川線新小金井駅が開設される。
1920 年	大 正 9 年	<p>第1回国勢調査が行われる。</p> <p>世 帯 数 631 世帯 人 口 3,866 人 (男 1,873人、女 1,993人)</p>
1922 年	大 正 11 年	小金井村役場が中町(現福祉会館)に開所する。
1923 年	大 正 12 年	小金井村に電灯がひかれる。
1924 年	大 正 13 年	<p>小金井の桜が「名勝」として内務大臣から指定される。</p> <p>多磨霊園が開園する。</p>
1926 年	大 正 15 年	中央線武蔵小金井駅が開設される。(南口)
1926 年	昭 和 元 年	小金井村に最初のバス路線が開通する。
1928 年	昭 和 3 年	小金井郵便局(無集配局)が開設される。
1930 年	昭 和 5 年	<p>小金井村の車両数は次のとおり。</p> <p>総 数 1,176 台 乗用車 1台 トラック 2台 その他の自動車 6台 牛 車 13台 人力車 3台 自 転 車 790 台 荷 車 361台</p> <p>小金井村が昭和病院組合に加入する。</p>
1932 年	昭 和 7 年	<p>村民の職業別世帯数は次のとおり。</p> <p>総 数 1,303 世帯 農 業 412 世帯 商 業 218 世帯 工 業 118 世帯 そ の 他 555 世帯</p>

西 暦	年 号	記 事
1937 年	昭 和 12 年	2月11日町制が施行される。 初代町長 平 井 武 茂 小金井町の町勢は次のとおり。 世 帯 数 1,784 世帯 人 口 9,481 人 町 費 62,457 円 町 職 員 数 13 人 小学校生徒数 1,533 人 教 員 数 29 人
1939 年	昭 和 14 年	都立小金井高校が開校される。
1940 年	昭 和 15 年	小金井大緑地(後の都立小金井公園)が着工される。
1941 年	昭 和 16 年	現東京農工大学工学部(東京高等蚕糸学校)が開校される。
1944 年	昭 和 19 年	小金井尋常高等小学校が小金井国民学校と改称される
1946 年	昭 和 21 年	慶応大学工学部が開校される。
1946 年	昭 和 21 年	東宮仮御所と学習院中等科が小金井緑地内に移り、以後5年間皇太子殿下の御学問所となる。 小金井国民学校が小金井小学校と改称される。
1947 年	昭 和 22 年	教育基本法、学校教育法公布により新学制による小学校、新制中学校が発足する。 小金井第一中学校が開校する。 中部分教場が小金井第二小学校として独立する。
1948 年	昭 和 23 年	小金井警察署が開設する。 北多摩中央消防組合(小金井・国分寺・小平)が発足する。 小金井町体育協会が発足する。
1949 年	昭 和 24 年	第1回町民運動会が開催される。 東京学芸大学が都内の4師範学校を合併して発足する。東京第二師範は同大学の小金井分校となる。
1950 年	昭 和 25 年	武蔵小金井駅北口が開設される。 小金井緑地の東宮仮御所が焼失する。
1951 年	昭 和 26 年	東部分校が小金井第三小学校として独立する。 西部分校が小金井第四小学校として独立する。 東京学芸大学附属小金井中学校が現在地に移転される。
1952 年	昭 和 27 年	町役場の庁舎が現在地に移転する。 第1回小金井町教育委員会委員選挙が実施される。
1953 年	昭 和 28 年	小金井町公民館が開館する。
1954 年	昭 和 29 年	都立小金井公園が開園される。 武蔵野郷土館(元光華殿)が、都立小金井公園内に開設される。 第1回成人式が開催される。 小金井第二中学校が開校する。
1955 年	昭 和 30 年	武蔵小金井駅に始発設備が完成される。 町営水道が創設される。
1958 年	昭 和 33 年	10月1日市制が施行される。 初代市長 鈴 木 誠 一 小金井市の市制概要は次のとおり。社会福祉協議会が発足する。 世 帯 数 9,771 世帯 人 口 40,124 人(男20,705人 女19,419人) 市予算額 14,815 万円 市民1人当たり 3,692 円 都市ガスが普及される。

西 暦	年 号	記 事
1959 年	昭 和 34 年	武蔵小金井電車区が開設される。 東小学校が開校する。 東京学芸大学附属小金井小学校が開校する。
1960 年	昭 和 35 年	北多摩中央消防組合を解消し東京消防庁北多摩中央消防署が発足する。 世界連邦平和都市宣言をする。 日本住宅公団小金井団地(緑町)が完成する。
1961 年	昭 和 36 年	小金井電報電話局が開設され、ダイヤル式通話となる。 小金井市東部浄水所が完成する。 小金井市商工会が発足する。
1962 年	昭 和 37 年	小金井郷土芸能保存会が結成される。 交通安全都市宣言をする。 東京都住宅供給公社小金井本町住宅が完成する。
1963 年	昭 和 38 年	清里山荘、小金井公会堂、湖南処理場(し尿処理場)、東京都住宅供給公社貫井住宅、国家公務員住宅、中央大附属高等学校等が完成する。
1964 年	昭 和 39 年	東小金井駅、都立小金井保健所が完成する。 法政大学工学部、市立東中学校、前原小学校が開校する。 都立武蔵野公園が開園される。 市立図書館が開館(一小木造校舎2階)する。
1965 年	昭 和 40 年	東小金井貨物駅、二枚橋老人福祉センター、本町小学校、市役所本庁舎が完成する。 住居表示始まる。
1966 年	昭 和 41 年	郵便局用地買収、初の市立児童館(本町)開館する。 小金井市西部浄水場が完成する。 本町小学校が開校する。
1967 年	昭 和 42 年	北多摩中央消防署緑町出張所が完成する。 婦人会館が開館する。
1968 年	昭 和 43 年	小金井市福祉会館、小金井郵便局本局が完成する。 移動市役所の業務を開始する。 初の市立保育園(くりのみ)が開園する。
1969 年	昭 和 44 年	緑小学校が開校する。公共下水道事業に着手する。 公害事務の取扱を開始する。
1970 年	昭 和 45 年	わかたけ保育園が完成する。 市内で最後の田植えが行われる。
1971 年	昭 和 46 年	文化財保護条例が制定される。 ノーカー運動が始まる。 都立小金井保育園が小金井市に移管され、市立小金井保育園となる。
1972 年	昭 和 47 年	緑中学校が開校する。 武蔵小金井駅東側に歩道橋が完成する。 宅地開発指導要綱を制定する。

西 暦	年 号	記 事
1973 年	昭 和 48 年	南小学校が開校する。 さくら保育園が開園する。 貫井南センターが公民館・児童館の2施設を併設して発足。 市制施行15周年記念式典で市の木「ケヤキ」、市の花「サクラ」、市民の木「モクセイ」「クリ」「モミジ」、市民の花「サツキ」「ツツジ」「キク」を決め発表する。 緑地保全条例を制定する。 公民館本町分館が開館する。 第1回市民まつりが開催される。
1974 年	昭 和 49 年	都営水道料金の一元化が開始される。 都市ガスを天然ガスへの転換が開始される。 老人福祉電話が開通する。
1975 年	昭 和 50 年	小金井公園にC57蒸気機関車と三等客車が設置される。 市立図書館新館が開館する。 けやき保育園が完成する。 緑寿園地域センターが開設される。
1976 年	昭 和 51 年	小金井市体育協会が財団法人化される。 高齢者事業団が発足される。 都立小金井養護学校が開校される。 ピノキオ幼児園が完成する。 全国で初の「老人健康総合調査」に着手する。
1977 年	昭 和 52 年	南中学校が開校する。 10万人目の市民が誕生する。 声の広報がスタートする。
1978 年	昭 和 53 年	国際基督教大学高等学校が開校される。 市議会史を発刊する。 市民憲章を制定する。 三宅村と友好都市盟約を締結する。
1979 年	昭 和 54 年	滄浪泉園が開園する。 市内の電話加入3万台に達する。
1980 年	昭 和 55 年	都立小金井北高校が開校される。 都立野川公園が開園される。
1981 年	昭 和 56 年	小金井第二小学校に「きこえの教室」が開校 都道248号線が市内全面に開通する。 公共下水道が100%達成する。
1982 年	昭 和 57 年	非核平和都市の宣言がされる。 都立小金井公園が新東京百景に選ばれる。
1983 年	昭 和 58 年	移動児童館「わんぱく号」2世が誕生する。 上之原会館が開館する。 有料自転車駐車場を設置する。
1984 年	昭 和 59 年	貫井北町中之久保集会所を開設する。 小金井市婦人行動計画を策定する。 難病患者見舞金支給事業を実施する。
1985 年	昭 和 60 年	前原町丸山台集会所が完成する。 小金井第一中学校にクラブハウス・柔剣道場が完成する。 中学校で外国人による英語指導授業を開始する。

西 暦	年 号	記 事
1986 年	昭 和 61 年	福祉会館に保健会場を開設する。 老人ホーム桜町聖ヨハネホームが開設される。 武蔵小金井駅南口アーケードが完成する。 中間処理場が完成する。
1987 年	昭 和 62 年	市内全域が下水道の処理区域になる。 緑児童館、前原町西之台会館、桜町上水会館が開館する。
1988 年	昭 和 63 年	こがねい30景を選定する。 浴恩館公園が開園する。 中学校にコンピュータ教室を設定する。 東センターが開館する。 西之台会館が開館する。
1989 年	平 成 元 年	小金井市総合体育館が開館する。 小金井市個人情報保護条例を施行する。
1990 年	平 成 2 年	貫井南町三楽集会所を開設する。 外国人相談窓口を開設する。 桜町高齢者在宅サービスセンターが開設される。
1991 年	平 成 3 年	東小金井駅北口に立体自転車駐車場を設置する。 中間処理場にプラスチック系廃棄物固化装置を設置する。 清里山荘を改築する。 緑センターが開館する。
1992 年	平 成 4 年	「三楽の森」公共緑地が開園する。 学校週5日制が実施される。 小金井市地域環境管理計画を策定する。
1993 年	平 成 5 年	江戸東京たてももの園が開園される。 文化財センターが開館する。 小金井市民テレビが開局される。 障害者福祉センターが開館する。 「美術の森」緑地が開園する。
1994 年	平 成 6 年	小金井市役所第二庁舎がオープンする。 保健福祉計画を策定する。 小金井市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例を制定する。 栗山公園健康運動センターが開館する。
1995 年	平 成 7 年	住民基本台帳を電算化する。 小金井市福祉公社を設立する。 はけの森緑地が開園する。
1996 年	平 成 8 年	男女平等都市宣言を制定する。 天皇皇后両陛下が江戸東京たてももの園をご視察される。 東京都小金井保健所の事務の一部が小金井市に移管される。
1997 年	平 成 9 年	小金井市青少年の健全な育成環境を守る条例を施行する。 保健センターがオープンする。 小金井市全域が東京都の緑化地区に指定される。 小金井市行財政改革大綱を策定する。 ペットボトルステーション回収を開始する。 老人保健施設「小金井あんず苑」が開設される。 小金井警察署新庁舎が開署される。

西 暦	年 号	記 事
1998 年	平 成 10 年	小金井市まちをきれいにする条例を施行する。 小金井市消費生活条例を施行する。 小金井市情報公開条例を施行する。 本町高齢者在宅サービスセンターを開設する。 小金井消防署が開署される。
1999 年	平 成 11 年	緑の基本計画を策定する。
2000 年	平 成 12 年	第2次保健福祉計画を策定する。 老人ホーム「つきみの園」が開設される。 中町在宅介護支援センターが開設される。
2001 年	平 成 13 年	のびゆくこどもプラン小金井を策定する。 第3次小金井市基本構想を策定する。 市民会館「萌え木ホール」を開設する。
2002 年	平 成 14 年	11万人目の市民誕生
2003 年	平 成 15 年	小金井市コミュニティバス(CoCoバス)の運行を開始する。 市の鳥、市の虫を制定する。 環境基本条例を施行する。 男女平等基本条例を施行する。
2004 年	平 成 16 年	小金井市子ども家庭支援センターを開設する。 市民参加条例を施行する。 小金井市障害者地域自立生活支援センターを開設する。
2005 年	平 成 17 年	ファミリー・サポート・センターを開設する。 家庭ごみの一部有料化を実施する。 東小金井駅開設記念会館(マロンホール)を開設する。 権利擁護センター(ふくしネットこがねい)を開設する。
2006 年	平 成 18 年	公会堂を閉館する。 市立はげの森美術館を開設する。 燃やさないごみの3分別収集を実施する。 都立小金井公園でスリーデーマーチを開催する。 前原暫定集会施設を開設する。
2007 年	平 成 19 年	小金井市まちづくり条例を施行する。 二枚橋焼却場全焼却炉停止 可燃ごみの広域支援による処理を開始する。 こがねい安全・安心メールの配信サービスを開始する。 雨水浸透施設等の市内設置率50%を達成する。 小金井市障害者就労支援センター(エンジョイワーク・こころ)を開設する。
2008 年	平 成 20 年	市制施行50周年を迎える。 小金井市イメージキャラクター「こきんちゃん」が誕生する。 名誉市民に星野哲郎氏、宮崎駿氏を選定する。 バリアフリーのまちづくり基本構想を策定する。
2009 年	平 成 21 年	小金井市のホームページへのアクセスが1千万件を達成する。 JR中央本線連続立体交差事業で「三鷹～国分寺」間の高架化が完了する。 CoCoバスの利用者が500万人を達成する。

西 暦	年 号	記 事
2010 年	平成 22 年	二枚橋衛生組合が解散する。 玉川上水・小金井桜整備活用計画を策定する。 第3次行財政改革大綱を策定する。
2011 年	平成 23 年	梶野公園が開園する。 第4次小金井市基本構想を策定する。
2012 年	平成 24 年	小金井市民交流センターがオープンする。 「いじめのないまち 小金井宣言」を制定する。
2013 年	平成 25 年	上山谷緑地公園が開園する。 第68回国民体育大会(弓道競技・バスケットボール競技)が開催される。 児童発達支援センター(きらり)を開設する。 市制施行55周年を迎える。 第1回市民文化祭が開催される。